

(別紙4)

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491000077		
法人名	有限会社 福祉オフィス中村		
事業所名	海岸通り グループホーム南風		
所在地	三重県尾鷲市新田町21番5号		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町提出日	平成27年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2491000077-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2491000077-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 12 月 2 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中、本人本位の支援を大切に、開放的な環境の下、本人が出来ることを多く見つける支援に力を入れている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな天狗倉山・便石山に守られているような尾鷲市の高台の住宅地に立地している。玄関先には素敵なベンチが置かれ、誰もが立ち寄りたくなる暖かい雰囲気を出している佇まいの大きな窓からは尾鷲湾を望むことが出来る。利用者、職員から全幅の信頼を得ている所長のもと、法人の理念『利用者の自己決定を尊重して、地域の中で触れ合いを持ちながら、その人らしい生活が送れるように支援する。』を高齢者介護の深い知識と豊富な経験をもつ管理者と全職員が共有し、日々の介護にあたっては、昼食時、『尾鷲港に届く珍しい魚や新鮮な野菜の献立が多く、此処の食事は毎日楽しみ』と話された利用者を見守る若い職員の眼差しも優しく、家族からも職員が皆、活き活きとして明るいので訪問するのが楽しみ』と感謝の声が多く届いている。美味しい食事を通し、質の高い健康的な生活を家族・利用者の希望に添えるように、臨機応変に対応している。地域住民や家族の訪問が日常的に行われ、利用者が一人で、駄菓子屋に買い物に行くなどの楽しみ事も多く、地域から大切にされ、守られている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所の目的を管理者、職員が理解、共有し、サービスを提供出来るように努めている。	法人の理念『利用者の自己決定を尊重して、地域の中で触れ合いを持ちながら、その人らしい生活を送れるように支援する。』を職員に徹底し、日々のケアの中で常に理念に立ち返って実践に繋げる様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との日常的な交流を積極的に行えるように日頃から、地域の催し物等に参加している。	地域の子供会が主催する夕涼み会に、場所を提供したり、近隣の学園の空き缶回収に協力したり、近所から野菜や花等が届くなど事業所が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた研修等は、行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、必ず、開催している。事業の取り組み状況等の説明、報告をし、委員からの意見、要望等を運営に反映し、質の向上に活かしている。また、地域の情報等も取り入れ、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回、火曜日13時から(年6回)開催している。報告だけではなく地域からの情報やアドバイスを多く出してもらえる様に工夫して意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。(議事録も毎回きちんと作成されている。)	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合、市担当者、包括支援センター職員と連絡を取り、協力体制を築けるよう努めている。	運営推進会議の案内書などを市担当者に手渡しに行く際、連絡を密にとり、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの作成。内部研修等で職員間での理解を深めている。 身体拘束は、行っていない。	管理者および全ての職員が身体拘束・言葉の拘束の内容とその弊害を認識し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関や居間の開閉扉はいつもオープンにして、利用者・家族がいつでも自由に入出入り出来る様に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの作成。内部研修等で職員の理解を深めると共に職員の介護負担の軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会、包括支援センターとの連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすく丁寧な説明を基本とし、不安や疑問点には、真摯に対応できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員は、家族との関わりを大切に、要望、苦情等を表しやすい雰囲気づくりと信頼関係を育めるよう努めている。本人や家族からの意見を理解し、運営推進会議に反映させている。	家族会を10月に開催し、ホームを理解してもらいながら、何時でも意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。そこから出た意見や要望はミーティングで話し合い、運営やケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上の会議を行い、意見交換、提案が聞ける体制を整えている。会議欠席者がいる場合でも会議の共有、意見の吸い上げに努め、職員全体の意見を参考に反映している。	所長・管理者・職員のコミュニケーションはとて良好で、月1回の会議(全職員が出席可能な日、19時から)や、日々のケアの現場での意見や要望は直ぐに運営に反映させるように取り組んでいる。和室の相談室もあり、研修も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談、自己評価、目標設定、意見交換を行いながら、職員のモチベーションが維持出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修、リーダー研修に参加。習得した事を内部研修に活かせるよう、職員一人一人の習熟の段階を理解できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に出席。意見交換や参考事例等、多角度からの視点を持ち、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の中での個別支援を主に利用者の要望や不安の要因を察しながら本人の意向に沿える支援に取り組んでいる。会話を持ちながら安心出来る空間の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者との関わりを大切にし、家族の思い、要望等、しっかり傾聴している。適切な支援が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報、本人の状態を把握し、現時点で必要なサービスを家族と一緒に決めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての関わりを大切にしている。家族に近い関係が持て、また、個性的に楽しんで共同生活を送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族を思う気持ち、家族が利用者を思う気持ちを察し、絆を繋ぐ役割を持てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のお祭りや催し物に積極的に参加し、開放的な環境作りに努めている。家族との外出、外泊も自由に行っている。	家族・親族との外食や外泊の機会も多く、馴染みの人との関係が途切れない工夫をしている。利用者の地元の祭りに参加したり、墓参り・自宅訪問など馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり方を尊重とし、共同生活の中でお互いを認め合う関係作りのサポートに入りながら状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の催し物等に声を掛け、気軽に訪問や相談がしやすい環境作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりを密に持ち、日常生活の中から本人の思いや意向をくみ取っている。職員間で検討する際に反映し、本人本位に努めている。	夜間に眠れず話を聞いてもらいたい方とゆっくり話をしたり、話が困難な方からは表情や雰囲気から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、馴染みの方、本人からの情報を元に生活歴を把握し、共同生活の中からも発見もできるような努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の自由な時間を確保し、共同生活でのストレス軽減を図っている。 日々、出来ることを探し、有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から家族と現状を共有し、思いや意向に触れている。本人との関わりで全職員からのモニタリングも反映し、現状の課題を抽出。適切な介護計画の作成に努めている。	利用者一人ひとりの心身の状態を職員間で常に共有するように努めている。職員の日誌を活用して、モニタリングに反映させている。介護計画は3ヶ月毎に見直し、変化がある時には随時の見直しもやっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の意思、意向等が読み取れるような記入の仕方を意識し、職員間で共有できるように努めている。会議で介護計画、ケアの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向を主に必要に応じて柔軟な対応を心がけ、家族にも理解を深めていただけよう努めている。既存のサービスには捉われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民と日常的に関わりが持っている。近くの学生、住民との関わりを大切に開放的な暮らしに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診で適切な医療を受けられ、利用者と家族、かかりつけ医との関係を築けるよう努めている。	現在、利用者・家族の希望により馴染みのかかりつけ医を受診されている方は2名で、7名の方は協力医の受診である。協力医は24時間対応で、適切な医療が受診できるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師に相談を行っている。情報交換、連携を図りながら必要に応じて対応している。また、協力医の指導も受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当のケースワーカーとの情報交換と利用者の理解を深め、安心して治療できるよう配慮している。担当看護師にも同様、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、家族との話し合いを持っている。希望があれば、可能な限り看取りまで行いたいと思っているが、まだ、該当者が出ていない。	入居時などの早い段階に利用者・家族と話し合い、事業所でできることを説明はしているが、指針はまだ作成されていない。希望があれば可能な限り看取りまで行うことも考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員全体で共有は、出来ている。想定を幅を拡げ、研修の中での実践力を身に付ける必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回定期的に防災訓練を実施。消火訓練、避難訓練を必ず、実施し、近隣住民の協力を得ている。災害時等、地域の避難場所にと考えている。	年2回、防災訓練(消火訓練と避難訓練)を行っている。10月27日にキッチンからの出火を想定して、消防署員立会いのもと利用者も参加して、防災訓練を行っている。	災害はいつ発生するかわからないので、細やかな訓練(夜間も含めて)と地域との連携(協力体制、情報交換、地域住民への避難場所の提供)を検討、実施される事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を行いながら、常時、利用者を尊重している。基本的な人との関わり、礼儀作法を用いて日常のケアに取り組んでいる。ファイルや個人情報情報は、厳重に保管し、注意を払っている。	利用者一人ひとりの人格やプライバシーを尊重することをケアの基本としている。名前の呼び方・排泄時・入浴時・居室に入る時など、利用者の気持ちに添うように優しく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員全体で日常的に自己決定を促す支援に取り組み、本人本位のサポートが出来るよう努めている。また、自己決定の出来ない場合は、察することで把握し、近づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活に慣れすぎないように配慮し、一人ひとりの思いや感情を常に出せ、利用者自身の時間を大切にしている。本人の希望に危険が伴わないことで可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容、外出、気分転換等、本人の好みに合わせ、その人らしくお洒落を楽しんでいる。時には、アドバイスを含め、職員と共有し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から食事の準備まで可能な限り、利用者と職員と一緒にいる。昼食は、職員も一緒にいただき、食事の会話も弾み、楽しい時間となっている。後片付けは、積極的に行っている。	調理の音や匂いで五感を刺激し、旬の食材や新鮮なものをとり入れて食事が楽しみなものになるように工夫している。職員も同じテーブルと一緒に食事をしながら楽しい会話に花が咲き、和やかな食事風景である。また、利用者とメニューを決めて、食欲を高めたり、素敵なランチョンマットを敷いたり、食事への関心を引き出す場面づくりの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な雰囲気と食事作りを心がけ、出来るだけバランスのとれた食事を提供。こまめな水分補給を摂ることで体調管理に努めている。個々の嗜好、家族からの情報も参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	概ね、出来ている。 一人ひとりに合った適切な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握。 トイレでの排泄を気持ちよく、行えるよう自立に向けた支援を行っている。	日々の寄り添うケアから尿意のサインや一人ひとりの排泄パターンを把握して、自立排泄に向けた支援を行っている。トイレの中も分かり易く工夫している。立位の工夫や色々なトレーニングを行い、なるべくおむつをしない工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のバナナヨーグルトの提供、毎食のメニューにも配慮し、水分摂取、運動を実践。排泄しやすい体作りと予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆず湯、菖蒲湯等、季節に応じたお湯や入浴剤を使用し、入浴を楽しめる環境を整えている。 入浴日や入浴時間に決まりはない。	ピンク色の明るい浴室での入浴はローテーションを組み、不公平感が無いように工夫して入浴が楽しめるように支援している。利用者一人ひとりのこだわりにもきちんと対応し、柚子湯や菖蒲湯・入浴剤など工夫し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣が維持できるよう努めていると共に本人の意思に沿って休息、安眠が出来るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認と職員間の共有、服薬支援を行い、服薬前後の状態を把握するよう努めている。変化が見られた場合は、主治医との連携が図れるよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの有する能力を把握し、自信や張り合いに目を向けた支援を行っている。役割、気分転換も同様、個々によつての支援を行い、時には、楽しみを大勢で分かち合うことにも気を配っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、お茶、外食等、日常的に行う外出支援に少しずつ取り組んでいる。家族との外出・外泊、地域の催し物にも参加している。	一人ひとりの希望を把握して支援している。季節の花見や外食・地域の祭(尾鷲ヤーヤ祭り・八幡神社の祭り...)に出かけるなど楽しみ事も多い。また、玄関先の素敵なベンチに座つての交流が、外出しにくい利用者の憩いの場になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと、本人の希望があれば、可能な限り所持していただき、買い物等、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親族との電話は、自由に行えている。 本人から家族に向けての手紙に取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースである居間は、季節を感じられる装飾にしている。装飾は、季節の話題に触れ、利用者と共に作成することが多い。照明は、明る過ぎず、目に優しいものを選び、全体に家庭的な雰囲気心を心がけている。	尾鷲湾を望むことが出来る大きな窓のある共用空間には、季節の花が飾られている。季節感や生活感をとり入れた廊下にはベンチが置かれている。お気に入りの場所で一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士で、ゆったりとした時間を過ごせる居場所づくりの工夫が随所にみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内のあちこちにベンチを設置。気の合う利用者同士の交流の場となっている。居間には、ソファを置き、共用スペースでの心地よさと個々での活動を自由に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物を居室に配置し、一人の空間が居心地の良いものになるよう家族、本人と相談する。家具の配置については、動線、本人の希望に配慮している。	表札や暖簾の掲げられた居室はとても明るく清潔で、家族の訪問時にもゆっくり過ごしてもらえる様に配慮し、本人の意向を確認しながら、居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所等、場所がわかりやすいように工夫している。共有スペースは、バリアフリーになりすぎないような家具の配置、動線も取り入れ、利用者の能力の維持にも努めている。		